

あとがき

このインタビューのお話を頂いた時、内容は高校生にも理解出来るもの、というようにしたので、そのようにお話ししてみました。ただ、高校生ですとまだここに書いたような内容に関心を持つ時期ではないのではという不安が残ります。自分が日本人であることを意識して、じゃあ、自分と音楽との関わりはどうなんだろう、そういう関心、そういうテーマを自分の中に持つにはもう少し年齢を重ねる必要があるように思います。高校生ですと、もう生まれた時から自分の意識と関わりなく周囲に音楽という環境があつたわけで、その中から本人の意識はどうであれ偶然にいろんな音楽を選んで聴いているわけです。そこに何か問題があるなんてことはとても考えられないでしょう。

僕は団塊の世代と呼ばれている世代に属する人間ですが、高校時代によく巷で言われているようにビートルズに夢中になつていたわけではありません。でも、当時アメリカからやってきたポピュラー音楽はかなり聴いていました。ベトナム反戦をテーマにしたピート・シーガーのフォークソング「花はどこへ行った」とか、アラモの砦を舞台にした映画のテーマソングとかです。

当時はそういう音楽環境だったので。これらの音楽は今どこへ行ったのでしょうか。若い人たちに説明しようとしても全く話が通じません。借り物で根無し草のそ

の場限りの音楽だったのでしょ。高校生が近頃聴く音楽は私たちの頃のものとは全く違いますが、構造と云いますか、与えられた音楽環境があつて、その音楽を聴く、という構造には変化がないのではないでしょか。僕たちの頃はまだレコードの時代でしたが、今は、アイポッドとか携帯電話に代表されるようにとても簡単に音楽を自分で持つ時代になりました。それだけに、アメリカを中心とした欧米の音楽、あるいはそれを模倣した日本で作られた音楽があつて、ただそれを聞き流すという構造はそのままで、しかも聞き流す勢いははるかに増していると感じられます。

最初に言いましたように、高校生では音楽を日本人との関係で考えるというような動機はまだ生まれませんと思いますが、出来たら僕が気がついたよりももう少し早く、こういう問題があるんだということに何人かには気がついて欲しいですね。こういう問題をきちんと解決しないでは、本当は自分たちの音楽生活が豊かにならない。高校生に限らず、大学生も含めて若い人たちに読んでもらつて、自分たちが聴いている音楽って、何か一筋縄ではいかない、解決しなければいけない問題を実は抱えているんだ、こういう認識に少しでも早く到達して欲しい、そんな風に思っています。

最後になりましたがオセアニアの讚美歌集の研究に協力してくれたハワイ大学音楽学部民族音楽学教授ジェーン・ムーラン博士とハワイ大学ハミルトン図書館パシフィックコレクション・キュレータのカレン・ピーコック博士への感謝を記したいと思います。

■著者紹介

安田 寛(やすだ・ひろし)

1948年、山口県生まれ。国立音楽大学声楽科卒、同大学院修士課程修了。山口芸術短期大学助教授、弘前大学教育学部教授を経て、2001年より奈良教育大学教育学部教授。19世紀、20世紀の環太平洋地域の音楽文化の変遷について研究。著書に、『唱歌と十字架』（音楽之友社、1993年）、『日韓唱歌の源流』（音楽之友社、1999年）、『原典による近代唱歌集成』（編集代表:ビクターエンタテインメント、2000年）、『唱歌という奇跡 十二の物語』（文藝春秋、2003年）等がある。2001年第27回放送文化基金賞番組部門個別分野「音響効果賞」、2005年に第35回日本童謡賞特別賞。奈良市在住

奈良教育大学ブックレット 第2号

日本の唱歌と太平洋の讚美歌 ―唱歌誕生はなぜ奇跡だったのか―

2008年11月23日 初版第1刷発行

著者 安田 寛

企画 奈良教育大学出版会

装丁 仲野真輔(「仲真」)

発行者 三好信久

発行所 株式会社東山書房

〒604-8454 京都市中京区西ノ京小堀池町8-2

TEL:075-841-9278 FAX:075-822-0826

<http://www.higashiyama.co.jp>

印刷 創栄図書印刷株式会社

©安田寛 2008 Printed in Japan ISBN978-4-8278-1466-8

奈良教育大学出版会発足にあたって

奈良教育大学は、このたび奈良教育大学出版会を設立することいたしました。

国立大学の法人化後すでに五年を経過しましたが、国立大学にはこれまでも増して大学の教育と研究の成果を広く社会や地域に発信していくことが求められています。

本学における研究は、教育大学という特性上、教育学をはじめとする人文社会科学、自然科学、さらに芸術、体育学まで多様な分野にわたっています。特に、教育大学として社会的要請に応える学校教育と生涯学習に関する研究、学校教育における日々の教育実践上の課題に対応した研究を進めています。また、古都奈良の自然と歴史・文化に根ざした特色ある学際的研究も行われています。

しかしながら、これらの研究成果は必ずしも学校現場をはじめ地域社会には十分に知られていないのが現状です。

今回の奈良教育大学出版会の設立により、本学教員の研究成果を容易に出版することが可能になるとともに、一般教養書、学術書等の出版活動を通して、教育界をはじめ広く社会に貢献しひいては我が国の学術・教育・文化の振興・発展に寄与することができると確信しています。

出版会の最初の事業として、本学教員の研究内容を平易に紹介するブックレットを創刊いたしますが、今後とも「地域の知の拠点」としての大学の社会的使命を果してまいりますので、出版会の事業にご理解とご協力・ご支援をお願いいたします。

二〇〇八年九月

奈良教育大学長 柳澤 保徳